

お客様の大切なマットを高品質かつスピーディに仕上げる

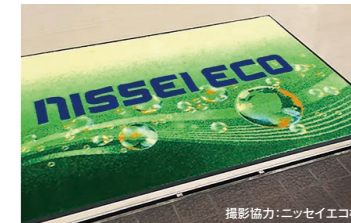
株式会社 アルプス

〒811-1211 福岡県那珂川市今光1-60-1
TEL 092-952-1128

業 種 洗濯業
従業員数 7名
資 本 金 1,000万円

会社や店の顔となる業務用マットをクリーニング

業務用マットやモップ、清掃用品のレンタル・販売会社である新九州リース販売株式会社（本社：福岡市南区）から、マットとモップのクリーニング事業を担う関連会社として2006年に分社。自社工場にて、主に福岡のクリニックやオフィス、ホテル、飲食店、ショッブなどで使用されているマットやモップの洗濯と乾燥を行っている。



撮影協力：ニッセイエコ様

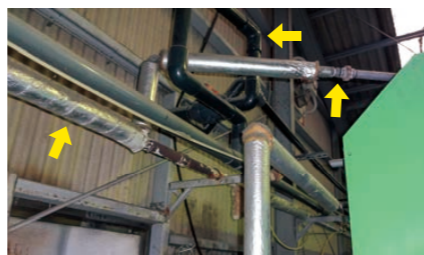
◎ 改善成果のポイント

訪問支援回数 | 10回（支援期間：5カ月）

- 5Sなど作業環境改善で生産性向上、リードタイム短縮
- 熱供給システムの弱点を対策し、乾燥能力向上、燃費改善



雑然としたものを迂回しながら作業



ボイラーと乾燥機をつなぐ配管の細さがネック



台車の置き場所をラインで明示



配管のみの安価な改造で供給能力を確保

Q どんな困りごと（課題）がありましたか？

工場ではお預かりしたマットやモップなどを洗濯機と乾燥機を使ってクリーニングします。

5Sという言葉を知ってはいるものの、日々の作業に追われ、実行する余裕がありませんでした。狭い工場内に物が多く、動線や作業性にムダが、作業工程・手順はベテラン社員の経験や勘に頼るところが大きく、バラツキがありました。

また、日々の受注をこなすのに、単純に洗濯機と乾燥機の稼働回転数を上げることでなんとか対応しようと考えていたため、その結果、残業時間を増やしたり増員するなどしなければならず、人件費の増大につながっていました。

課題 ①②③

Q 改善の取り組み内容を教えてください

まず5S（整理、整頓、清潔、清掃、しつけ）についてしっかり学び、徹底するようにしました。工場内の不用品は除去・廃棄し整理、床をはじめあらゆる場所を高圧洗浄機で清掃。作業の効率を考慮したレイアウトに変更、必要な物は置き場所をラインで表示して整頓、常に清掃し維持するようにしました。

次に、スタッフが各自の1日の仕事内容と時間を探り、ガントチャートで見える化し、作業計画と分担を見直しました。作業ごとに実測データを取り、基準時間と比較することで、スタッフがデータに基づいて問題を共有して改善案を考えるようになりました。

さらに、乾燥工程がボトルネックと特定。特にフル稼働時、乾燥時間のバラツキが顕著であることを突き止めました。専門家も交えて調査、分析すると、乾燥機を順に増設したことによる熱供給システムの能力不足と判明。送給圧力に着目し測定したところ、ボイラー本体の問題ではなく、熱供給配管が細く長く、圧力損失が増大していたため、特に顕著なメインの配管を太いものに取り替えました。

Q 取り組んで良くなった点を教えてください



メインの効果
（改善点）

マットの搬入から洗濯・乾燥、出荷までの工場内のリードタイムを改善前と改善後で比較しました。工場内の環境を改善して動線を確保したことなどで、例えばSサイズは4時間43分→3時間44分に短縮するなど、工数、リードタイムを平均約15%短縮することができました。

また、ボイラーから乾燥機への送給配管を太いものに変更したことで、5台の乾燥機で乾燥にかかる時間が安定して、これまで乾燥機によっては30分以上かかっていたものが最短16分に。5台平均で4分以上短くなりました。さらにボイラー用の灯油使用量を約10%削減することができました。



副次効果

スタッフから「工場内の環境が整備されて作業がしやすくなり、気持ちも前向きになった」「さらに改善しようという気持ちになった」という声が聞かれました。

まず、工場長自らが高圧洗浄機を手に、長年の汚れを洗い流すことから始めたことで、スタッフの意識が徐々に変わってきたように感じます。



今後の目標

今回の支援をもとに全体的な業務フローを見直しましたので、今度は洗濯工程を中心に分析すると共に、皆の声を聞きながらスタッフの動きをもっと改善し、より働きやすい職場づくりとさらなる生産性の向上に向けて全員で取り組んでいきたいです。



工場内が整理整頓されて作業効率が向上



スタッフが自主的に改善を実施

企業様の声

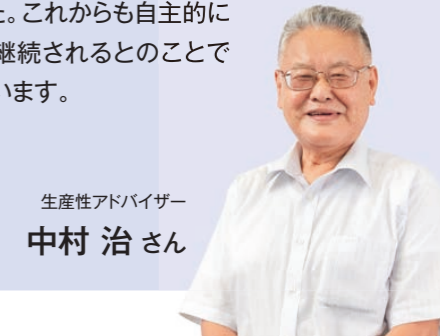
工場を改善したいと思っていましたが、何から手をつけたいかわからない状態でした。今回の支援によって改善の手法が分かり展望が開けて、乾燥時間とリードタイムも大幅に削減できました。改善する楽しさをスタッフ一同で実感しています。また、日常業務に追われて1日を終わるのではなく、工場長として計数的な考えを持ち、作業を標準化しなければならないということも理解できました。



株式会社 アルプス
工場長
山下 浩 様

生産性アドバイザーから一言

社長と工場長が熱意を持ち、スタッフのことを考えながら、今回の改善に真剣に取り組んでくださいました。スタッフの方もどんどん協力的になって、いい雰囲気の中で改善を進めることができました。これからも自主的に改善を継続されるとのことで期待しています。



生産性アドバイザー
中村 治 さん